

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 29年 11月 27日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4670105008
法人名	医療法人 博悠会
事業所名	グループホーム エデンの丘
所在地	鹿児島市 坂元町161-4 (電話) 099-247-5055
自己評価作成日	平成29年9月1日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	
-------------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉21かごしま
所在地	鹿児島市真砂町54番15号
訪問調査日	平成29年10月20日 (金)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・季節の行事(お花見・お食事会・合同夏祭り・敬老会・コスモス見学・クリスマス会等)や、誕生会(2ヶ月に1回)、家族会(食事会)などに家族の方にも参加の呼びかけを行い、入居者、職員ご家族が一体となって楽しく過ごせるように取り組んでいる。

・朝・夕の体操を毎日実施すると共に、個々人の体力に応じてストレッチなど取り入れ、残存機能の維持に努めている。又、少なくとも1週間に1回は全員が散歩等の外気浴を実施し、気分転換が図れるようにしている。

・地域の町内会に加入すると共に、職員が消防分団に在籍。町内の行事(町内会の夏まつりや敬老会、校区運動会等)には入居者や職員が参加させて頂いている。又、月1回の清掃作業では近くの公園や町内会のごみ拾い等を行い、地域の一員としての役割を果たすように努めている。

・運営推進会議、家族会など定期的実施し、ご家族始め地域の方や長寿安心相談センター職員、関係者の方々にホームの現況報告を行い、頂いたご意見・ご助言などを下に日々の運営に活かせるように努めている。

・有事の際の防災対策として町内会との防災組織を立ち上げ、それと連動した地域の近隣の福祉施設や事業所との連携を構築。協力施設間同士の地域防災連携会議の開催を定期的に行って、防災活動に努めている。

・個々人の生活のペースを大切にしつつ、日々の生活が活気あるものになるように、1階2階の合同レクや、食事会などを実施し、入居者同士とともに職員との馴染の関係づくりに努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

○ ホームは鹿児島市の住宅街に小規模多機能ホームやデイサービスと隣接して建てられ、敷地は日当たりが良く散歩や日光浴を楽しむことができる。夏祭りをはじめとした各種の行事や防災訓練、緊急時の対応など、併設の関連施設と相互に連携・協力できる体制が整っている。

○ 地域との交流は非常に活発であり、町内会に加入して防災組織に加わり、地域の夏祭り・運動会・敬老会・生涯学習発表会のほか、清掃活動にも積極的に参加している。事業所の夏祭りや敬老会、防災訓練等に多くの地域住民の方々に参加して頂くとともに、レクリエーションや見守り等のボランティアの訪問、年数回の実習生の受入れも行われ利用者は交流を楽しんでいる。

○ 管理者は職員に対して感謝の気持ちを持って接し、話しやすい雰囲気作りに努めコミュニケーションを図っている。日々のケアの中での対話のほか、朝礼や終礼、毎月の職員会議でも活発に話し合いが行われ、業務改善や利用者へのサービス向上に管理者と職員が一体となって取り組んでいる。職員間の連携も良好で、利用者個々のペースを大切に支援している。

○ 管理者と職員は、何より利用者やご家族との信頼関係を大切にしたいという思いを持っており、利用者の思いや意見の把握と共に、ご家族からも来訪時や家族会時に、話しやすい雰囲気作りに努めて多くの意見を頂くように努めている。内容は全員で共有して必要な対応を話し合い、具体的に実現できるよう日々取り組んでいる。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	「地域に信頼され人々との交流が自由に出来るように支援します…」という理念をリビングに掲げ、毎日朝礼時に唱和し実践につなげている。	ホームの理念に加え基本方針並びに職員の行動指針「日常の五心」を掲げ、これらを基に利用者が地域の中で心豊かに穏やかな生活が送れるように日々のケアに取り組んでいる。朝礼での唱和や毎月の職員会議により理念の意義を振り返り、理解を深めるように努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入すると共に地域の消防分団に職員が加入している。又、事業所、町内会双方の行事等にお互いが積極的に参加する事で、日常的な交流が図れるようにしている。	町内会に加入して、案内される地域の夏祭り・校区運動会・敬老会・生涯学習発表会等の行事や毎月の清掃活動に参加して交流を図っている。また、ホームで開催する夏祭りや敬老会、認知症の研修会等に家族や地域の方々に参加して頂いている。年に5～6回ある実習生の受入れのほか、レクリエーション等にボランティアの訪問もあり、利用者は交流を楽しんでいる。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	6事業所合同による認知症に関する研修会に地域の方々にも参加を頂き、活発な意見交換を通して一緒に考え、認知症に関する理解を深めることができるように働きかけている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を通して、ホームの状況報告、評価への取り組みなどを報告すると共に、地域や家族からの情報や助言を頂きながら、業務の改善に取り組んでいる。	会議は、家族や民生委員、地域住民、地域包括支援センターや消防署の職員のほか、時には警察の職員も参加して定期的に開催されている。ホームの運営状況や利用者の現況・行事等の報告をはじめ、問題点等について話し合いが行われ、感染症や防災対策、認知症ケアなど、具体的に運営やサービスに活かされている。民生委員の提案により、各種の行事後に職員の意見も集めて運営に活用する仕組みも築かれている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	市が実施する説明会や研修等に参加するようにしている。又、必要に応じて市役所、長寿安心相談センターに電話以外にも直接出向いて、助言や指導を頂いている。	市や地域包括支援センターの担当者とは訪問や電話での、入退所の手続・認定更新の手続、運営や利用者の状況についての確認・相談に助言・対応して頂くなど連携を図りサービス向上に取り組んでいる。また、グループホーム連絡協議会や市が主催する各種の説明会・研修会等にも積極的に参加し、意見や情報の交換も頻繁に行っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束廃止委員会を設け規定に基づき勉強会などを行うとともに、月1回定例の会議を行っている。又、メディアの報道等を受け朝礼・終礼時等において職員に周知を図り、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	言葉による拘束をはじめとした身体拘束をしないケアに取り組むため、毎月委員会を開催し計画的な勉強会や話し合いを行っている。また、報道される事例も参考にして、対応を職員で朝礼や終礼、日々のケアの中で話し合い理解を深めている。日中は居室や玄関の施錠は行わず、職員は連携して見守りや声かけを行い、安全を確保しながら利用者の自由な暮らしを支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全職員を対象に高齢者の虐待の講演会や研修会に機会あるごとに出かけ、内容について職員間で周知を図り、虐待防止に関する理解と実践に努めている。		
		○権利擁護に関する制度の理解と活用	関連する研修会があれば積極的		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	に参加し、必要があれば家族の相談に応じたり、参考になる文献を提供したりして一緒に考えるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約の際には、重要事項説明書及び、看取りに関する指針に基づき丁寧に説明し、特に医療行為が必要になった場合の対応、退去を含めた事業所の方針等について理解・同意を頂いてから契約を行うようにしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者と信頼関係を築く事を常に心掛け、不満などあれば何時でも自分の気持ちが表出できるように支援する。意見箱の設置及び、家族会や面会時において、カンファレンスを行い意見や苦情など聞く機会を設け、運営に反映している。	管理者や職員は、家族や利用者との信頼関係を大切に考え、利用者の思いや意見は日常の見守りや声かけも工夫した会話などで把握に努めている。ご家族からは訪問時や家族会・ホームの行事等で意見や希望を伺っている。日々の朝礼や終礼、月1回の職員会議で内容を共有して必要な対応を話し合いサービスや業務に活かしている。また、ご家族には電話や訪問時に速やかに報告している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	朝礼、終礼や月例職員会議の時、又、委員会活動(おごじよプロジェクト)の一環として、職員は気づいた事を記載、管理者に提出する事で意見や提案を聞く様になっている。	管理者自身が日頃から職員とのコミュニケーションを大切に考え、毎日の朝礼・終礼のほか、日々のケアの中、毎月の職員会議等を通じて利用者のケア並びに業務に関する職員の意見や提案の把握に努めている。更に職員が気づきをメモして提出する委員会活動を活用して広く意見を集め、職員とともに業務改善やサービス向上につなげるように取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>管理者は施設長、理事長と常に連携を取り、職員の勤務状況の把握や給与・休日面でも考慮し、職員の働きやすい環境作りに心がけている。</p>		
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>研修の開催の案内などを連絡簿に綴り、見たらサインをすることにより職員への周知を図っている。又、研修に参加したら研修内容を職員会議の時報告し、職員全員で勉強するようにしている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>鹿児島グループホーム協議会、介護支援専門員協議会等に入会し、積極的に研修に参加している。又、地域連携防災会議を通して、防災以外でも他施設との交流の場を設けている。</p>		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>事前の面談で本人の生活歴や現在の生活状況などの把握を行い、本人や、家族などから話を聞いた上で、不安や問題点などについて理解するようにして、信頼関係が築かれるように努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の困っていることは何かを話の中で良く聞き取り、そのニーズに応えられるように、これまでの本人の生活歴、家族関係を把握することで関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた時点で、本当に望んでいる支援は何かを見極めるとともに、今の状況の改善に向けた支援の提案等をしている。必要や希望があれば、他のサービスに繋げるように努めている		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の日々の言動に常に興味を持ち、言葉の裏側にある思いをくみ取り、ともに暮らしの中で共感し支えあえるような関係作りに努めている。逆に入居者に教えられることも多い。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	「ご家族連絡表」を送付する中で、日々の暮らしや生活の中での出来事や気づきを家族と共有するように努め、家族も行事などへ参加して頂くことで共に本人を支えていく関係を築くことに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の支援を得て、墓参りや外食等へ出かけている。又何時でも知り合いの方々の面会が気兼ねなく出来るような雰囲気作りを心がけている。	隣接のデイサービスに来られる利用者の友人が訪ねて来られることも多く、利用者の知人やご家族の来所時には、ゆったりと過ごせるように支援している。また、希望に添って趣味の支援や電話・手紙の取り次ぎも行っている。ご家族の協力も得ながら墓参りや外食に出かけられるように適切に支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	皆で過ごす時間を大事にし、一人一人が孤立しないように、毎日のお茶の時間には職員も中に入り、利用者同士のコミュニケーションを図れるように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後なども、必要とされる利用者や家族に対しては、相談などに応じ継続的なかわりを持つようになっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の会話の中で、言葉や表情から隠れた思いを推し測り、本人や家族の意向にそえるとともに接点が図れる様に努めているが、困難な場合、カンファレンスを行うようにしている。	入居時に利用者本人や家族から生活歴や現状の生活状況を聞き取り、利用者アンケートや日々の暮らしを通して利用者の思いや意向の把握に努めている。これらは朝礼や終礼等で共有を図り、カンファレンス等で対応を検討して、利用者個々のペースを大切にしたい支援となるよう取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前面談の中で本人やご家族の生活歴などの聞き取りを行い、入所後も折に触れ会話の中で情報を得るようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタルチェック表、経過記録等を通して利用者の生活リズム（食事、排泄、生活習慣等）を把握し、本人の出来る事に注目し、全体像をつかむようにしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランに沿って三ヶ月に1回は評価を行い、最低でも六ヶ月に1回は家族も含めカンファレンスを行っている。カンファレンスではその都度、課題を見直し、それぞれの意見を交換し、ケアプランに活かすようにしている。	担当者会議には利用者本人と家族も参加し、受診時の主治医の意見も取り入れながら関係者で協議して介護計画を作成している。日々のケアは支援経過記録に詳しく記述され、それらを基に3ヶ月毎に評価を行い、カンファレンスでは課題を見直して必要な修正を施している。また、様々な状態変化の都度話し合い、計画の修正を適切に実施している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の入居者の様子や実施したケアは経過記録に記し職員間で情報を共有しながら、重要なことはカンファレンスを行い、日々のケアや介護計画の見直しに活かすようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	職員もその時々変わるニーズに応えられる様に、研修会や勉強会などへの参加を行い、スキルアップを図るようにしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	隣接する金融機関等の協力支援体制がある。又、協力医療機関との連携を保ち、何かあれば、相談し健康に暮らせるように支援している。ボランティアも積極的に受け入れている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は、本人、家族の意向を第一とし、協力機関の病院や他病院への受診を家族の支援を頂くと共に、家族の希望があれば訪問診療も受け入れている。	一人ひとりの利用前の受診状況は十分に把握し、また、家族や医師と十分に連携して、本人や家族が希望するかかりつけ医の訪問診療もしくは通院を適切に支援している。受診状況や必要な対応についても職員をはじめとする関係者で情報の共有が図られている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員は日々の利用者の様子を把握し、介護職員などから相談を受け、情報を共有する事で、個々の利用者が適切な受診や治療を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはホームでの本人の身体状況・レベル・生活上でのこだわりなどを情報提供し、入院中の生活が円滑に行くように支援している。又、家族や医療関係者との連携が取れるように努め、退院時にはサマリーなどを頂き、ホームの生活に早く戻れるように努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取り介護に対する指針について契約時に説明している。その上で事業所で出来ることを説明し、家族と方針を共有するようにしている。	重度化や看取りに対する対応は「看取りに関する指針」に定め、入居時に利用者と家族に説明し同意をもらっている。本人や家族の思いをはじめ、様々な状況の変化に応じて繰り返し話し合い、医師や看護師・職員等の関係者が十分に連携を図り、ホームとして適切に支援・対応できる体制を築いている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応について個別にマニュアル化している。又年間行事計画の中で定期的に基礎救急救命講習会を開催して、心肺蘇生法、AEDの使い方など職員が習得している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練を年2回実施し、夜間を想定した避難訓練も実施している。万一、火災・災害発生時は、近隣の住民や協力施設の方からの応援体制を取っている。又、職員が地域の消防分団に入団している。	消防署や地域の方々の参加の基、定期的に夜間も含む火災や地震を想定した避難訓練や消火訓練を、隣接の小規模多機能ホームやデイサービスと共に実施している。自動通報装置やスプリンクラーなどの設置や食料・飲料水の備蓄も問題はなく、救命講習等の研修も適切に行われている。また、町内会では防災組織があり職員も地域消防団に加入している。災害に備え近隣住民や企業、周辺施設との協力体制も築いている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりの接し方において言葉遣いに気をつけ、人格を損ねないような対応を心がけている。又、排泄や入浴時等のプライバシーにも配慮するようにしている。	利用者の尊厳と権利を守るため、ホームの行動指針に沿って、また、ミーティング等で方法を共有して誇りやプライバシー確保に配慮した声掛けや対応を心掛けている。接遇や人権保護及び個人情報保護に関する研修も計画に沿って実施され、各種の個人記録や居室も適切に管理されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意思を言動だけに限らず、動きや目の表情などで読み取り、その方の能力に合わせた話しかけを行い、本人の自己決定を引き出すような支援を心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴や訪問理美容（散髪）の拒否のある入居者は次回にするなどして、個人の生活リズムやペースを尊重しつつ、周りとの協調性も図れるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	個人の選択を尊重しつつ、さりげなく助言し、出来るところはしていただき、出来ないところを支えるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食欲を五感に訴え、食事が楽しみとなるように心がけている。嫌いな物、食べられない物は出来る範囲で代替品を提供している。台拭きや下膳後のお盆拭き、ホワイトボードへの献立の記入など個人の能力に応じていただいている。	食卓の準備や後片付け、ボードへの献立記入など、利用者のできることは手伝ってもらい、個々の好みや健康状態に応じた献立・調理方法にも対応して職員と利用者が楽しく食事できるように工夫している。また、忘年会時の鍋料理等の季節の行事食や誕生会等の特別メニュー、弁当持参の花見、敬老会や父・母の日の家族との食事会など、利用者の楽しみにつながる工夫も行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分の摂取量を把握し、一人ひとりの嚥下状態に合った摂取が出来るように支援している。夏場は特に水分補給に注意し、ポカリなどで補給できるように支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、必ず、口腔ケアの声掛けを行い、必要に応じて介助をしている。義歯については定期的に洗浄剤での除菌を図っている。又、必要に応じて歯科の往診を受けるようにしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握するとともに、定期的にトイレ誘導を行う事で、排泄の失敗を少なくし、トイレで気持ちよく排泄が出来るように支援している。	必要に応じて家族とも情報交換し、日常のケアや排泄チェック表を通じて利用者個々のパターンを把握し、昼間は可能な限りトイレで排泄できるように支援している。職員は朝礼や終礼等で利用者個々に合った対応を話し合い、羞恥心や不安の軽減にも十分配慮して誘導や声かけの工夫に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	まず、水分摂取を促すとともに、食事の工夫や適度な散歩等の運動を実施するように支援している。特に便秘がひどいときは、主治医と相談し、緩下剤で調整している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	一応、入浴の曜日や時間帯は決めているが、強い入浴拒否のある入居者に対しては翌日に入浴していただく等、柔軟な対応を心掛けている。	利用者個々のペースや健康状態・安全に配慮しながら、場合によってはシャワー浴や清拭も含め、基本的には週3回の入浴をゆったりと会話しながら楽しんで頂いている。入浴を拒否される場合には、職員や時間帯の交替、また、繰り返し声かけも工夫しながら気分転換を図っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人のニーズ、状況に応じて休息を支援している一方、レクや体操など日中の活動を活発にすることで、昼夜逆転を防止している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルに病歴や内服薬の状況を綴じ、何時でも見られるようにしている。症状の変化があれば、上司・看護師に連絡し主治医の判断を仰ぐようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レクや洗濯物たたみ、お盆拭きなどの手伝いを行う中で、一人ひとりの力を活かせるようにしている。又、「戴きます。」等の音頭とりをして頂く事で、役割感を持つようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。</p>	<p>天気の良い日はホームの庭を全員が順番で散歩したり、定期的にご家族と外食をされるなどして気分転換を図っている。又、隣接するデイサービスでの慰問者による踊りなどの行事に参加している。</p>	<p>利用者の外出先の好みについては入居時に聞き取り、利用者の健康状態や天候を見ながら、本人の希望に沿って散歩や外気浴、近隣のドライブなどに出かけている。また、隣接するデイサービスで行われている踊りなどにも参加している。年に数回は、地域の行事や催し物をはじめコスモスなどの季節の花見も楽しんで頂いている。時にはご家族の援助のもとでの墓参りや親戚との交流、外食なども勧めている。</p>		
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>家族の把握の下、本人で少額のお金を所持している方もあるが、その他必要に応じて預かり金から出している。</p>			
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>電話の取次ぎを支援し、又必要があれば電話をかけられるよう仲介している。手紙が来たら本人とともに感情を分かち合うようにしている。</p>			
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>カーテンや照明で光の調節を行い、また不用意に大きな音を出さないように配慮している。リビングには皆さんで作成した壁画など季節感のあるものを掲げている。対面式のキッチンで調理の状況が見え、食欲をそそる音や匂いが漂い生活感を大事にしている。</p>	<p>共用空間は天井が高く、明るく解放感がある。リビングや玄関には季節の花が飾られ、周囲の壁には行事の写真や利用者作成の貼り絵などが飾られ居心地よく過ごせるように工夫されている。室温や湿度にも配慮がなされ、ソファも配置されて、利用者にとって不快に感じる音や臭いなどは感じられず、自由に気持ちよく過ごせるように配慮されている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>リビングの一角にはソファが置いてあり、入居者やご家族がくつろげるスペース作りをしている。</p>			
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>ソファやテーブル、パイプハンガーなど持ちこまれ、使い勝手を良くする等、居心地良い空間作りをしている。又家族の写真を飾られている方もある。</p>	<p>居室は広く明るく、ベッドやダンス・エアコンが準備されている。本人や家族の希望に合わせて、使い慣れた家具類や生活用品・写真などを自由に持ち込んで頂き、本人が落ち着いて暮らせるように家族とも協力しながら環境づくりを工夫している。</p>		
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>居室の入り口にはご本人の写真と名前、花の絵を掲げているとともに、目印になるような物を付けて気づきやすいようにしている。又、トイレは分かりやすいように絵文字で表示。ホールやトイレ、浴室には手摺を設けて安全面で考慮している。</p>			

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない